

今回、9月13日から17日の5日間の中国人民大学への研修について、私が感じたこととしてもっとも印象的だったのが中国と日本との文化の違いである。例えば、食文化について中国ではテーブルにおかずを沢山のせてそれをシェアして食べる。日本と違うのが一つ一つのおかずの量が多く全て食べきれないことである。また、日本では食べ物を残すことが作った相手に対して失礼である考え方があるが、中国ではその考えがあまりないように感じた。実際、何度か食堂やレストランで大量の残飯を見たことがあった。しかし、今回はどちらかという中国の都市部で食事をし、郊外での食習慣はわからないためこれが中国の食文化であるとは考えられない。むしろ貧困地域では残すどころか十分な食事ができないところもあるため、そのことを考えると中国の貧富の大きさが感じられた。また、現地で日本では、まず食べられないような食べ物をみたり食べたりすることができた。例えば、中国では海に近い地域は少ないため鯉などの川魚がよくだされた。実際食べてみると最初は生臭さが感じられたが、慣れると身も柔らかいし非常に美味しかった。他にも最後に行った王府井では、海星や蠍、タツノオトシゴなどもあった。ただこれらは少し値段が高かったため、観光客に対して売られていたものであると考えられ、あまり現地の人も食べたことがないと思われる。

次に印象的だったのが中国の交通状況である。日本では普通乗り物に乗っている人が歩行者を優先させるが、中国ではそういったルールが一切なかった。むしろ歩行者が車に対し注意し避けることがよくあった。車同士でも先へ行こうとする人が多くクラクションの音が常に聴こえていた。また、車自体は高級車が多く日本の会社も多く見られ、自転車は電動がほとんどで、むしろ原動付自転車がほとんど見られなかった。これに関して驚いたのは、電動自転車に乗るのには免許が必要なくすぐ乗れることである。これらの交通規制の緩さを実際見てみて中国の交通事故数が多いことが理解でき、すぐにでも取り組むべき問題であると思えた。

これらのような異文化の体験を通して、日本ではできないことを体験することができ学べることが沢山あることがわかった。また、この経験から学んだことを話すことによってこれからの就職活動にもいかし自身を語る要素にもなりえると思えた。もしまた、このような機会があれば積極的に参加したいと考えている。

